

# 目次 国語 Vol.3

## 読解編 第1部

1 文学的文章の読解

2 文学的文章 (1)

3 文学的文章 (2)

4 文学的文章 (3)

5 文学的文章 (4)

6 文学的文章 (5)

7 文学的文章 (6)

8 文学的文章 (7)

9 文学的文章 (8)

..... 4

..... 11

..... 16

..... 22

..... 31

..... 36

..... 45

..... 52

..... 60

## 読解編 第2部

10 説明的文章の読解

11 説明的文章 (1)

12 説明的文章 (2)

13 説明的文章 (3)

14 説明的文章 (4)

15 説明的文章 (5)

..... 68

..... 72

..... 76

..... 82

..... 88

..... 94

16 説明的文章 (6)

17 説明的文章 (7)

18 説明的文章 (8)

..... 100

..... 107

..... 114

## 読解編 第3部

19 韻文の読解

20 韻文 (1) (詩①)

21 韻文 (2) (詩②)

22 韻文 (3) (短歌)

23 韻文 (4) (俳句)

..... 122

..... 128

..... 134

..... 144

..... 151

## 読解編 第4部

24 古典の読解

25 古典 (1)

26 古典 (2)

27 古典 (3)

28 古典 (4) (漢文)

..... 156

..... 160

..... 167

..... 172

..... 177

言語事項編 第1部

29 文法 (1) (文の組み立て) …………… 180

30 文法 (2) (品詞の分類) …………… 183

31 文法 (3) (品詞の識別 ①) …………… 188

32 文法 (4) (品詞の識別 ②) …………… 193

33 文法 (5) (敬語) …………… 197

言語事項編 第2部

34 表現・記述の学習 …………… 200

35 表現・記述 (1) …………… 204

36 表現・記述 (2) …………… 208

37 表現・記述 (3) …………… 213

38 表現・記述 (4) …………… 218

39 表現・記述 (5) …………… 224

知識事項編 第1部

40 漢字・語句 …………… 226

知識事項編 第2部

41 文学史 …………… 232

付録

1 用言活用表 …………… 237

2 助動詞活用表 (口語) …………… 238

3 助動詞活用表 (文語) …………… 239

# 文学的文章の読解

## 例題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

学習日 月 日



15 10 5



45 40 35 30 25 20

50

(注) 蒸籠はかまの上に入れて湯気を通し、食品を蒸す道具。

〈井上靖「ハムちゃんの正月」より〉

□(1)

**設定をつかむ**

啓次の家の暮らし向き(経済状態)が最もよくわかる一文を本文中から探し、その最初の五字を書き抜いて答えなさい。

□ □ □ □ □

□(2)

**比喩**

――線①「その日から、家は本格的な忙しさになった」とありますが、忙しい家の様子をたとえた二字のことばを、本文中から書き抜いて答えなさい。

□ □ □ □ □

□(3)

**適語補充**

※ □ に入る最も適切なことばを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 啓次は仕方なく、友達と遊ぶことにした
- イ 啓次は、寂しさを紛らわせる必要があった
- ウ 啓次は啓次で、十分に忙しかった
- エ 啓次は、もちつきを忘れることにした

□ □ □ □ □

□(4)

**心情をつかむ**

――線②「『だめ、だめ』啓次は首を大きく振って、『つけたら、おれが知らせに来てやる』』と言うときの啓次の気持ちとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア もちに水を混ぜてついているところを友達に見られたら大変だという気持ち。

70

65

60

55

イ 友達を連れていってもちつきのじゃまをすると、母親にしかられてしまふという気持ち。

ウ 実際にはついていないのにつきだしたと言ったうそがばれてしまったら困るといふ気持ち。

エ もったいぶって友達をじらし、自分は大切な仕事をしているのだと得意に思う気持ち。

□(5) **心情をつかむ** — 線③「もちのことで起こったけんかの場合、妙に

割り切れない寂しい気持ちがあとに残った」とありますが、その理由として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア たかもちのことぐらいで友達を殴ってしまったことが悔やまれたから。

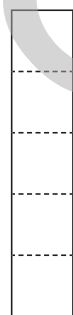
イ 自分の家ではもちに水を混ぜてついているのだと友達に知られたのが恥ずかしかったから。

ウ 自分の家で村のもちをつくという誇りが傷つけられたように感じたから。

エ 自分よりも弱くて、しかも無抵抗の相手を殴った自分自身が許せなかったから。

□(6) **段落構成をつかむ** 本文中の【 】の部分、啓次の心情の面から大

きく二つの場面に分けるとすれば、どこで分けられますか。後半の最初の一文の初めの五字を書き抜いて答えなさい。



## 解法の解説

(1) **設定をつかむ** 設定をつかむことは文学的文章を読む上でとても重要です。この場面は、「ほとんどの家が漁業によって生計を立てている村の

年の瀬から正月にかけての話が描かれています。主人公の「ハムちゃん（啓次）」の家は農業を営んでおり、暮れになると、村の家のあちこちから頼まれてもちをつきます。それを「ハムちゃん」は自慢にしていますが、彼の家は農家といっても、「海に向かって丘陵の斜面に、少しばかりの田んぼと畑をもって」いるだけです。だから、「田んぼから上がる収益は、一家の糊口をどうにか支えることができるというだけのもの、このもちつきから上がる収益によって、初めて啓次親子に正月がやって来ることになっていった」と述べられています。「糊口」は、ようやく生計を立てることを表すことばです。啓次にとって、誇りとも生き甲斐ともいえるもちつきは、大人たちにとっては、貧しい暮らしを支える大事な収入源なのです。その対照を読み取りましょう。

(2) **比喩** 文学的文章では、様々な表現技法によって、その味わいが深められています。表現技法については、韻文（詩、短歌、俳句）のところ詳しく整理しますが、文学的文章においては、特に次のような技法に注意します。

I 比喩 たとえ。文章に深みや味わいを与える。

「天使のようにあどけない寝顔」など。

特に、人でないものを人のように表現する技法を「擬人法」という。「雨が追いかけて来た」など。

II 倒置法 語順を普通と逆にする。

「おもしろい、この本は。」など。

Ⅲ 省略法 語句を省略して読者の想像にまかせ、強調する。

「枝には真つ赤なりンゴが……。」など。

Ⅳ 体言止め 体言で文を止めて、文章をひきしめる。

「ふるさとの村。なつかしい顔。」など。

Ⅴ 対句 語句を対にして並べ、リズムを与える。

「春には花が咲き、秋には実が結ぶ」など。

Ⅵ 反語 疑問の形で表現し、それとは逆のことを強調する。

「はたして不幸だったのだろうか（実は幸福だったのだ）」

「誰が信用するものか（誰も信用しない）」など。

比喩表現の意味を考えると、味い深く文章を読む上でとても大事なことです。47・48行目に「本当に家は戦場のような騒ぎである」とあります。

(3) **適語補充** 空欄に適語を補充する問題では、空欄の前後に注意して、

空欄の部分がどのような働きをしているかを考えなければなりません。

ここでは、特に、空欄の直後の一文「もちつきの進行状況を、村の友達に伝えるために飛び回らねばならなかった」に注意することが大切です。ここから、「啓次は母親から、家にいるとじゃまだからと外へ出て遊ぶことを強要された」ものの、彼は彼なりにすべきことがあったことが分かります。

(4) **心情をつかむ** 28行目に「啓次は自分の家で村の家のもちをつくこと

が、何となく誇らしかった」と改めて書かれているように、啓次にとって自分の家のもちつきは、大人たちの思惑・事情とは別に、純粹な生き甲斐・誇りをもてるものだったのです。そこから、啓次に、自分の家のもちをつきだしたことを知らされた友達が目撃させて、「そうか、見に行ってもいいか？」と言うのを即座に断る啓次の心情を考えます。

(5) **心情をつかむ** 54～57行目に「もちつきがひとまず終わり、そのもち

を食べる正月がやって来ると、啓次は暮れほど楽しくはなかった。もちろん

正月を迎えることはうれしかったが、暮れの何日間に味わった心の張りとい

うものは、もう彼にはなかった」とあるのをふまえます。ここからも、もち

つきは彼にとって純粹な生き甲斐であったことが分かります。そのもちのこ

とから起こったげんかに感じる「妙に割り切れない寂しい気持ち」とはどの

ようなものかを考えます。

(6) **段落構成をつかむ** 文学的文章では、論理的文章とは違い、論理では

なく、場面の変化によって段落が決まります。場面の変化は、時間、場所、

登場人物、心情の変化として表現されますので、これらの点に注意します。

ここでは、心情の変化からの段落分けが問われていますが、正月になると、

啓次には暮れに味わった心の張りがなくなることが述べられていることか

ら、心情の変化は時間の変化に伴って起こっていることが分かります。

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

35

30

25

20

15

□ (2)

慣用句

※ に適切なひらがな三字のことはを入れ、「迷いから

--	--	--	--	--

□ (1)

内容をつかむ

線①「はっとした。」とありますが、人をはっ

とさせるのは何ですか。それをまとめて述べたことばを本文中から六字で  
書き抜いて答えなさい。

(注) 帰納＝個々の特殊なものを総合して、それらの共通点を求め、そこから一  
般的な結論を出すこと。

〈竹西寛子「愛するという言葉」より〉

50

45

40

覚め、急に事態がよく見えて理解できるようになること」を意味する慣用句を完成させなさい。


□(3) **指示語**——線②「それ」が指していることばを、本文中から一単語で書き抜いて答えなさい。


□(4) **細部をつかむ**——線③「本質の変化」について、次のそれぞれの問いに答えなさい。

□①「本質」と対義的に用いられていることばを、同じ形式段落から一語で書き抜いて答えなさい。

□② 筆者の場合、「本質の変化」を起こさせたのは何ですか。本文中から一語で書き抜いて答えなさい。

□③「本質の変化」が起きたことを比喩的に表現している一文を本文中から探し、その最初の七字を書き抜いて答えなさい。

□④ 次から「本質の変化」の説明として適切でないものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 内面からの求めによってそれは起きる。
- イ 長い時間がかかってそれが起こるのが普通である。
- ウ それが起こるためには芸術的センスが必要だ。
- エ 最も自分らしいところでそれは起こる。
- オ いったん起こるとそれはなかなか変わらないものだ。

③	①
	②
④	

(5) **細部をつかむ**——線④「音楽家や画家との違いを認めずにはいられない」について、次のそれぞれの問いに答えなさい。

□①「音楽家や画家」は、何をもって感じたり、自らの芸術活動を行ったかしていると書かれていますか。具体的なものを本文中から十五字（読点も字数に数えます）で書き抜いて答えなさい。

□②「音楽家や画家との違いを認めずにはいられない」ことについて、筆者は最後にどう結論づけていますか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 自分が劣った存在であることがとても悔しい。
- イ 芸術的センスが自分がないのが残念である。
- ウ 人それぞれであり、自分は自分である。
- エ 芸術の才能を今後一層磨いていきたい。

①	
②	

### 解法の解説

(1) **内容をつかむ** 「はっとした」とは「心の平静が乱された」ことを表したことばですが、人間はどのようなものに驚かされるかを考えます。「一匹の虫」「一枚の木の葉」「川の流れ」「電車内の乗客の会話」「一枚の絵」など、具体例が次々と書かれています。さて、本文ではそれらをまとめて、どのように述べているかを探します。

(2) **慣用句** 内容を分かりやすく説明したり、文章の味わいを深めたりする手段として、ことわざや慣用句、故事成語が比喩として用いられることがあります。

いずれも数が多く、一朝一夕には習得できるものではありませんが、慣用



句の場合、体に関するものも多いので、それぞれの部位ごとにまとめて覚えるのも理解を早める手段となります。

例えば、「目」に関するものだけでも、

「目が肥える」＝「よいものを見慣れて、見分ける力が確実になる」

「目が覚める」＝「迷いがとけて正常にもどる」

「目が届く」＝「世話・監督などが行き届く」

「目がない」＝「ひどく好む」

「目から鼻へ抜ける」＝「①すぐれてかしこい。②ぬけめなく、すばしこい」

「目に余る」＝「することがひどすぎてだまっていられない」

「目に入れても痛くない」＝「非常にかわいい」

などという具合に数多くあります。

ことばの学習は漢字同様、日頃から少しずつ進めていくようにしましょう。

- (3) **指示語** 内容をつかむには、指示語が何を指しているかを把握することが大切です。多くの場合、「それ」はすぐ前の事柄を指します。しかし、時には、かなり前の部分を指すこともあります。また、その指す内容が広い範囲に渡っていて、その内容を要約して答える必要がある場合もあります。また、まれに、指示内容が後に書かれていることもあります。いずれにしても、文章の流れに沿って考え、該当する部分が見つかったら、そのことばを指示語の代わりに入れてみて筋道の通った文になるか確かめるようにしましょう。

- (4) **細部をつかむ** 「本質の変化」とは、「感じ方や考え方」が根底から変化することを表しています。

- ① 「刺激」には「一時的な表面の変化にかかわるような場合」と「深いところで、本質の変化にかかわるような場合」とがあると述べられています。
- ② 直後の文に「乏しい自分の経験をふりかえってみると、さしあたってことばのはたらきなどは、本質の変化にかかわり得るものの代表であるよう

に思われる」とあります。

- ③ 本文中の「あれは一つの曲がり角だった」「あの時自分は確かに何かを」とび越えた」は、そこではつきりと変化したことを隠喩的に表現したものです。

\* 隠喩……「まるで」～「ようだ」などの語句を用いない比喩表現。

- ④ 「本質の変化」について説明している部分を文章の流れに沿って探します。八・九段落に「自分の最も自分らしいところのことばで影響を受けるには、随分時間がかかるけれども、そうしていったん起こった変化は容易に消えるものではない」「内から求めるものもあって、長い時間のうちに、そういうものでおいおいに自然に起こった内部変化は、ひとたびその状態になつてしまうと、今度はおいそれとは別の状態にはならない」と書かれています。

- (5) **細部をつかむ** 「ことば」によって刺激を受けたり、考えたりする「私」と「音楽家や画家」との対比をとらえます。
- ① 直後に、「少なくとも私においては、音そのもの、色や線、形そのもので感じたり考えたりということはほとんどなくて……」と書かれています。
- ② 設問の「最後にどう結論づけていますか」ということばにまどわされて最終段落をながめても、答えを導くことはできません。「音楽家や画家との違い」に対する感想はその直前の段落でまとめられているからです。そこには、「これはよし悪しや優劣で割り切れる種類のことではなく、人それぞれの適性ではないかと思う」と書かれています。

## 文学的文章(1)

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

学習日 月 日

20

15

10

5

45

40

35

30

25

(注) 絶品＝非常にすぐれた、すばらしい品物・作品。

造物主＝宇宙の万物を作ったもの。

義憤＝正義・人道のための怒り。

一献＝一杯の酒。

□(1) — 線①「日本が広くなる」の、この場合の意味として最も適切と考え

られるものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 狭い国土が実際以上に広く感じられるということ。

イ 北と南では気温の差がさらに大きく感じられるということ。

ウ 気候風土がさらにいっそう多様に感じられるということ。

エ 旅に費やす時間が長くなり、その分だけ広く感じられるということ。

□(2) □① ① に入ることはとして最も適切なものを次から選び、記号で答え

なさい。

ア 純粹化      イ 画一化

ウ 単純化      エ 平板化

□(3) — 線②「北国の人々の場合であれば、拍手で送り、迎えたい」とありますが、筆者がどのように考えるのはなぜですか。その理由として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 北国の人々が暖かい地を求めることは、自然の感情として納得できるから。

イ 北国の人々が暖かい地を求めることは、期せずして、異質な風土に接するということにならなっているから。

ウ 北国の人々が暖かい地を求めることに限らず、知らない土地へ出かけることは、異質に接することだから。

エ 北国の人々が暖かい地を求めることは、北国のつらさをいやし、心身を回復させるのに最適だと考えられるから。

□(4) — 線③「造物主の不公平に義憤を覚える」とありますが、筆者のこの

心情は、どのような状況に対して述べられたものですか。その状況の説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 冬の日本列島はわずかな距離の日本海側と太平洋側とで気候風土が全く異なること。

イ 幅の細い列島である本州の自然は、北海道の広大な大地の自然とは比べ物にならないこと。

ウ 同じ地域でも、冬を楽に過ごせる人々と冬の厳しさに苦しむ人々が存在すること。

エ 冬の味覚がそれぞれの土地には存在するが、その土地に行かなければ味わえないこと。

□(5) □② ② に入る慣用句として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 目を開く      イ 目を見はる

ウ 目をおおう      エ 目を伏せる

□(6) — 線④「冬だけの眼福」の、ここでの意味として最も適切と考えられるものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 冬にだけ味わえるすばらしい味覚。

イ 冬の北海道の荘厳な大景観。

ウ 冬だけのすばらしい景観を見る幸せ。

エ 冬の旅で、土地の酒を傾ける楽しさ。

□(7) — 線⑤「日本は旅するに値する『広い国』だ」とありますが、筆者は

「旅」をどのようなものとしてとらえていますか。筆者にとっての「旅」の意義が最も明確に述べられている一文を本文中から探し、その最初の七字を書き抜いて答えなさい。


□(8) 本文の内容を表した標題として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 旅の意義

イ 日本は「広い国」

ウ 異質に触れる旅

エ 冬の旅の魅力

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

10

5

〈森本哲郎「信仰のかたち」より〉

45

40

(注) 名状しがたい⇨物事の有様をことばであらわしにくいこと。

具現⇨はっきりと具体的にあらわすこと。

□(1) ———線①「不思議なことだ」とありますが、それはなぜですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 記憶があざやかによみがえるのは、遠い日のことが多いから。

イ 「記憶」について、「よみがえってくる」という表現をする理由が分からないから。

ウ 記憶がよみがえるのは、突然起こることだから。

エ 記憶がよみがえってくるのに、理由などないのではないかと思うから。

□

□(2) ———線②「象徴的な行為」が指している内容を本文中から六字で書き抜いて答えなさい。


□(3) ———線③「何か人間の誇りのようなものを感じた」とありますが、筆者

は、どのような点に「人間の誇りのようなもの」を感じていますか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 子供の力でも、石を破壊することができた点。

イ 子供ごころにも、不滅なものに対する征服欲を持っている点。

ウ 人間の手の力は、硬く不滅に見える石よりも強い点。

エ 人間は、硬く不滅な石さえ自分の意のままにできる点。

□(4) ———線④「それ」が指している内容を本文中から十字で書き抜いて答えなさい。


□(5) ———線⑤「見てはならぬものを見たような気がし」という心情の説明として、最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 今まで知らなかった自然の神秘を見て、いやな気分になったので、見なければよかったと思っている。

イ 今まで知らなかった自然の神秘を見てしまったが、まだ子供が知っているいけないことであつたと思っている。

ウ 今まで知らなかった自然の神秘を、自分だけが知ってしまったのは悪かったと思っている。

エ 今まで知らなかった自然の神秘に、たやすく触れてはならなかったのだと思っている。

□(6) ———線⑥「文明史の反復」とはどのようなことについて言ったものですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 子供の遊びは、人間が人間らしい文化を身につけるまでの流れを、成長するまでの間に何度も繰り返し返しているのだということ。

イ 子供の遊びは、人類が進歩していくまでの移り変わりをたどっていく

# とどばの教室

ような内容を持っているのだということ。

ウ 子供の遊びは、いつも同じ様な内容で、世代ごとにそれが繰り返される。ながら、「遊び」の歴史を作っているのだということ。

エ 子供の遊びには世代ごとに流行があるが、「遊び」というものの長い歴史から見れば、ある周期で同じ繰り返しがあるということ。

**1** 次のそれぞれの文の——線部の漢字は読み方をひらがなで、カタカナは漢字に直して答えなさい。

(1) 荒涼とした景色が広がる。

(2) 大仏殿には荘厳な雰囲気漂う。

(3) 勝利の感激に浸る。

(4) 炎上したバスから無事ダッシュする。

(5) 秋の山々はキワダって美しい。

(6) 交通安全の標語をボシユウする。

(7) 冬山でトウシ寸前の目にあう。

(8) 幼い日のキオクがよみがえる。

(9) 入試に向かってケンメイに努力する。

(10) することもなく、タイクツな一日。

(11) ハトは平和をシヨウチヨウする。

(12) 人間としてのホコリを持つ。

(13) 二人はかたく手をニギった。

**2** 次のそれぞれのことばを用いて、主語・述語の整った短文を作成しなさい。

(1) 「概して」

(2) 「脈絡」